

電磁気学I 10回目 §2.3 静電誘導の例 (鏡像法)

導体内に電場があると...

- ⇒ 電荷が移動する **誘導電荷**
- ⇒ 外部電場を打ち消す新たな電場が発生 **誘導電場**
⇒ **導体内の電場がゼロ**になる。

導体がある場合の電場の特徴

- ① 導体内部に電場はない
- ② 電荷は導体表面のみ、内部にはない
- ③ 導体表面では電場は面に垂直
- ④ 導体表面は等電位面

導体内 → 電場なし OK!

導体外 → 外部電場 + 誘導電荷の作る電場

どうやって求める? ⇒ **鏡像法**

鏡像法とは? 導体外の電場、電位を求めるための一方法

導体外の電場を求めるために、

仮想的に導体内に電荷 (鏡像電荷) をおき、

外部電荷による電位 + 鏡像電荷による電位 = $\phi(r)$ が

導体表面で一定になるようにする。

鏡像電荷の**大きさ**、**位置**を
いい塩梅に決める。

導体外で

電場 $E = -\nabla\phi$ がガウスの法則、うずなしの法則を満たし、
(点電荷のつくる電場をクーロンの法則で計算すれば当然満たす。)

また、導体表面で等電位であるような $\phi(r)$ は

一つしかないことがわかっている。

⇒ よって、求めた電位 $\phi(r)$ は正しい電位である。

鏡像電荷は、誘導電荷を点電荷で置き換えたものに対応。

静電誘導の例: 鏡像法

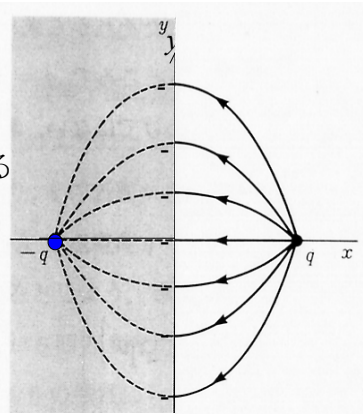
例1. 導体平面と点電荷

$x = d$ の点電荷 q が作る電場により、
導体表面 ($x = 0$) に誘導電荷が現れる

- 導体内部の電場はゼロ
- 導体内部の電位は一定

$x = 0$ で ϕ が一定 (= 0) になるように
考える。

→ $x = -d$ に $-q$ の電荷を「仮想的に」おいた場合を考える。



点P(x,y,z)での電位 ϕ

$$\phi(x, y, z) = \frac{q}{4\pi\epsilon_0\sqrt{(x-d)^2 + y^2 + z^2}} + \frac{-q}{4\pi\epsilon_0\sqrt{(x+d)^2 + y^2 + z^2}}$$

$$\phi(x=0, y, z) = 0$$

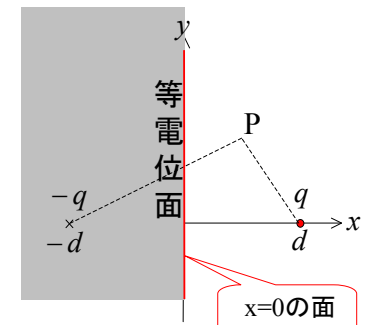
確かに等電位面
になっている。

$$\vec{E} = -\text{grad}\phi = -\nabla\phi = \left(-\frac{\partial\phi}{\partial x}, -\frac{\partial\phi}{\partial y}, -\frac{\partial\phi}{\partial z} \right)$$

$$E_x = -\frac{\partial\phi}{\partial x} = \frac{q}{4\pi\epsilon_0} \left[\frac{x-d}{\{(x-d)^2 + y^2 + z^2\}^{3/2}} - \frac{x+d}{\{(x+d)^2 + y^2 + z^2\}^{3/2}} \right]$$

$$E_y = -\frac{\partial\phi}{\partial y} = \frac{q}{4\pi\epsilon_0} \left[\frac{y}{\{(x-d)^2 + y^2 + z^2\}^{3/2}} - \frac{y}{\{(x+d)^2 + y^2 + z^2\}^{3/2}} \right]$$

$$E_z = -\frac{\partial\phi}{\partial z} = \frac{q}{4\pi\epsilon_0} \left[\frac{z}{\{(x-d)^2 + y^2 + z^2\}^{3/2}} - \frac{z}{\{(x+d)^2 + y^2 + z^2\}^{3/2}} \right]$$



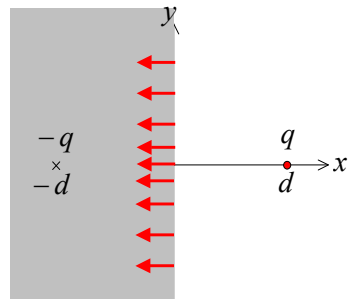
誘導電荷は、 $x=0$ での電場から求められる。 $\leftarrow \sigma = \epsilon_0 E$

$$E_x = -\frac{qd}{2\pi\epsilon_0\{d^2 + y^2 + z^2\}^{3/2}}$$

$$E_y = E_z = 0$$

$\sigma = \epsilon_0 E$ より、

$$\sigma(y,z) = -\frac{qd}{2\pi\{d^2 + y^2 + z^2\}^{3/2}}$$



→ y - z 平面で σ を積分すると $-q$

電荷 q に働く力

電荷 q と(鏡像)電荷 $(-q)$ の間に働く力

=誘導電荷作る電場から q に働く力

導体の静電誘導の問題を鏡像法によって解くときの手順

- | | |
|---------|---|
| 1. 鏡像電荷 | 1. 導体表面を等電位面にするように、鏡像電荷の大きさ、位置を決める。 |
| 2. 電位 | 2. 外部電荷による電位(あるいは外部電場に対する電位) + 鏡像電荷による電位。 |
| 3. 電場 | 3. 電位を微分して電場を求める。 |
| 4. 誘導電荷 | 4. 導体表面での電場の法線成分(電場の大きさそのもの)を求め、誘導電荷を求める。 |

$$E = -\nabla \phi$$

$$\sigma = \epsilon_0 E$$

例2. 一様な電場中の導体球(半径 R)

一様な外部電場

$$E_e = E_z$$

E_e による電位は、

$$\phi_e = -E_e z$$

導体球面上で $\phi = \text{一定}$

→ $r=R$ で $\phi=0$ となるようにする



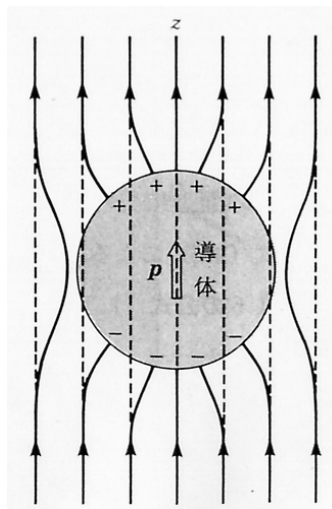
原点に仮想的に電気双極子 p を置く。

双極子が作る電位 ϕ_p は

$$\phi_p = \frac{pz}{4\pi\epsilon_0 r^3}$$

全電位は

$$\phi = \phi_e + \phi_p = -E_e z + \frac{pz}{4\pi\epsilon_0 r^3}$$



$r=R$ のとき、

$$\phi(r=R) = -E_e z + \frac{pz}{4\pi\epsilon_0 R^3} = 0$$

$$\rightarrow p = 4\pi\epsilon_0 R^3 E_e$$

電位は

$$\phi = -E_e z + \frac{R^3 E_e z}{r^3} = \left(\frac{R^3}{r^3} - 1\right) E_e z$$

問3 $r > R$ で電場 E を計算せよ。 p49

$$\phi = -E_e z + \frac{R^3 E_e z}{r^3} = \left(\frac{R^3}{r^3} - 1 \right) E_e z$$

$$E_x = -\frac{\partial \phi}{\partial x} = -\frac{\partial}{\partial x} \left(\frac{R^3 E_e z}{r^3} \right) = -R^3 E_e z \frac{\partial}{\partial x} (r^{-3}) = -R^3 E_e z (-3)r^{-4} \frac{\partial r}{\partial x}$$

$$= 3R^3 E_e z r^{-4} \frac{x}{r} = 3R^3 E_e \frac{zx}{r^5}$$

同様にして、

$$E_y = -\frac{\partial \phi}{\partial y} = 3R^3 E_e \frac{zy}{r^5}$$

$$E_z = -\frac{\partial \phi}{\partial z} = -\frac{\partial}{\partial z} (-E_e z) - R^3 E_e \frac{\partial}{\partial z} (zr^{-3}) = E_e - R^3 E_e \left(r^{-3} + z \frac{\partial}{\partial z} (r^{-3}) \right)$$

$$= E_e - R^3 E_e \left(r^{-3} + z \frac{\partial}{\partial z} (r^{-3}) \right) = E_e - R^3 E_e \left(\frac{1}{r^3} - 3 \frac{z^2}{r^5} \right)$$

$$\text{以上より、 } \mathbf{E} = 3R^3 E_e \frac{z}{r^5} (x, y, z) + \left(0, 0, E_e - R^3 E_e \frac{1}{r^3} \right)$$

問4 球面上に誘導された電荷面密度 σ を求めよ。 p49

$$\mathbf{E} = 3R^3 E_e \frac{z}{r^5} (x, y, z) + \left(0, 0, E_e - R^3 E_e \frac{1}{r^3} \right)$$

$$= 3R^3 E_e \frac{z}{r^5} \mathbf{r} + \left(0, 0, E_e - R^3 E_e \frac{1}{r^3} \right)$$

球面上の点の座標は、極座標表示で $\mathbf{r} = (R \sin \vartheta \cos \varphi, R \sin \vartheta \sin \varphi, R \cos \vartheta)$

この点における面の法線ベクトルは $\mathbf{n} = \frac{\mathbf{r}}{R}$

面上における電場ベクトルは

$$\mathbf{E} = 3R^3 E_e \frac{R \cos \vartheta}{R^5} \mathbf{r} + \left(0, 0, E_e - R^3 E_e \frac{1}{R^3} \right) = 3E_e \frac{\cos \vartheta}{R} \mathbf{r}$$

$$\text{よって、 } E_n = \mathbf{E} \cdot \mathbf{n} = 3E_e \frac{\cos \vartheta}{R} \mathbf{r} \cdot \frac{\mathbf{r}}{R} = 3E_e \cos \vartheta \frac{R^2}{R^2} = 3E_e \cos \vartheta$$

$$\left(\text{あるいは } E_n = |\mathbf{E}| = 3E_e \frac{R \cos \vartheta}{R} R = 3E_e \cos \vartheta \right)$$

$$\sigma = \varepsilon_0 E_n = 3\varepsilon_0 E_e \cos \vartheta$$

球面座標

